

第十四章 在留日本人差別待遇諸問題

第一節 差別待遇ヲ定ムル諸立法

一九二〇年加州土地法ノ制定ハ歐洲戰後再生セル日本人排斥諸運動ノ先驅ナリトス同年十一月同法成立ノ前後ニ瓦リ加州排日論者ハ所謂黃禍ニ對シ白人ノ利益ヲ保全スル爲日本人排斥ノ最モ急務ナルコトヲ宣傳スルニ力ムル所アリ其結果澎湃タル排日思潮州ノ内外ニ奔溢シ同州ニアリテハ一九二一年及二三年ノ州會ニ於テ數個ノ排日法ヲ制定セシメ外華州「オレゴン」州等沿岸諸州ニ於ケル排斥法制定運動ヲ促進セシメタルノミナラス遠ク「デラウエア」「テキサス」等日本人ノ在住僅少ナル諸州ニ於ケル一部政治家ヲモ刺戟シ竟ニ一九二一年及二三年ノ兩度ノ州會ニ瓦リ排日土地法ヲ制定スルモノ十州ヲ超ユルニ至レリ今日日本人ニ最モ關係アル沿岸三州ニ於ケル排日法制定經緯ヲ略述シタル後差別待遇諸立法ノ現狀ヲ瞥見スヘシ

第一、華　　州

一、華州憲法ノ規定ト日本人

元來華州ハ一八八九年十一月一日自治州トナリ憲法ヲ制定シタル以來外國人ノ土地所有ヲ禁止セ

リ此點加州ト趣ヲ異ニス現行州憲法第二章第三十三條ニ

合衆國ノ市民トナル意思ノ宣誓ヲナササル外國人ハ本州内ニ於テハ相續抵當權ノ設定又ハ債權行使ニヨリ適法ニ所有權ヲ取得シタル場合ヲ除キ土地所有權ヲ享有スルコトヲ得ス本條ノ規定ハ貴重ナル礦石、鑛物、鐵、石炭、煉粘土ヲ含有スル土地又ハ產物製作ニ必要ナル工場敷地ニハ適用セス社團法人ノ株式ノ過半カ上記外國人ニヨリテ所有セラル時ハ其法人ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ外國人ト認ム

トアリテ之ニ附屬ノ法律規定アリ從來日本人中抵當權設定又ハ株式會社組織ニヨリ若干土地ヲ所有シタル者アレトモ華州在留日本人ノ農業發展ハ主トシテ借地ニヨリタルモノナリ

二、日本人ノ借地權剝奪運動

一九二〇年加州土地法制定運動成功スルヤ之ニ刺戟セラレ華州ニ於テモ排日論者ハ同州ノ例ニ做ヒ人民直接立法ニ依リ日本人ノ借地權ヲ剝奪スヘキ排日土地法ヲ制定セントシ同年十一月中旬ヨリ其運動ニ着手シタルカ年末多忙ノ爲法定ノ期間内ニ其請願書ニ必要數ノ賛成署名ヲ得ル能ハシテ右企畫ハ失敗ニ歸セリ

三、排日土地法案ノ州議會通過

直接立法運動ニ失敗シタル排日派ハ一九二一年一月ニ召集セラルヘキ州議會ニ同様ノ排日土地法案ヲ提出スヘキコトヲ聲明シ同年一月二十七日「キング」郡選出下院議員「アダム・ビーラー」及「ゼー・ティ・ジーンズ」ハ同院ニ排日土地案ヲ提出シタリ同案ハ二月二十五日七十一票對十九票ヲ以テ下院ヲ通過シ上院ニ於テハ原案ニ若干ノ修正ヲ加ヘ三月二日三十六對二ヲ以テ通過シ越エテ三月四日之ヲ州知事「ハート」ニ送附セリ

四、幣原大使ノ同法案阻止斡旋

帝國政府ニ於テハ華州土地法制定運動ニ對シテハ終始注意ヲ怠ラサリシカ愈々州議會兩院ヲ通過シタルヲ以テ一九二一年三月七日幣原大使ハ「デヴィス」國務次官ニ會見シ華州知事ヲシテ排日土地法案ヲ否認セシムルカ爲何等カノ措置ヲ講セムコトヲ要望スル旨ヲ申入レタルニ同次官ハ斯ノ如キ措置ハ從來ノ經驗ニ鑑ミ何等效果ヲ期待シ得サルノミナラス却ツテ有害ナル結果ヲ招致スル虞アリ然ルニ過日成立シタル幣原「モリス」非公式協議案ニシテ採擇セラルニ至ラハ華州土地法案ノ問題モ自ラ解決セラルヘキモノニシテ此際州知事ノ行動ニ干渉ヲ試ミルヨリモ條約締結ノ方法ニヨル根本的解決ニ努力スルコト更ニ實際的ニシテ得策ナルヘク該解決案ノ實現方ニ對シ速ニ考量ヲ與ヘラルル様新國務長官ニ進言スヘシト語レリ同日幣原大使ハ新國務長官「ヒューズ」

トモ面會シ同長官ニ大體ノ見地ヨリ本件並ニ其他日米間ノ諸問題ニシテ速ニ解決ヲ要スルモノア
ルコトヲ指摘セリ

五、州知事ノ署名

然ルニ州知事「ハート」ハ三月八日之ニ署名シタルヲ以テ署名後九十日ヲ經テ六月九日ヨリ施行
セラルルユトトナレリ

同土地法ノ内容要旨次ノ如シ（附屬書第九十五號）

(一) 本法ニ於テ「外國人」トハ善意ニ米國市民トナル意思ヲ表示シタル者以外ノ外國人又ハ株式
ノ過半カ外國人ニ依リ所有管理セラレ若クハ會員ノ過半カ外國人ヨリナル法人及其他ノ團體ヲ
云フ

「土地」トハ鑄物金屬石炭等ヲ含有スル土地又ハ產物製造加工ニ必要ナル工場敷地ヲ除ク他ノ一
切ノ土地及其上ノ利益並ニ土地ノ支配占有使用及收益ノ權利ヲ含ムモノトス但シ合衆國ト當該
外國人ノ本國トノ間ニ存在スル條約ニ依リテ土地ノ使用ヲ許サルル外國人カ十ヶ年ヲ超エサル
期間ニ於テ土地ノ占有使用等ヲナス權利並ニ抵當權ハ之ヲ除外ス

(二) 外國人ハ土地ヲ所有シ又ハ土地ニ關スル權利ヲ保有スルコトヲ得ス何人モ外國人ノ爲ニ土地

又ハ土地ニ關スル權利ヲ取得保有スルコトヲ得ス將來ニ於テ州憲法又ハ本法ノ規定ニ違反シテ
外國人ニ讓渡セラレ又ハ其使用ニ供セラレタル土地ハ沒收セラレ州ニ歸屬ス

(三) 外國人ハ土地ヨリ成ル財產ノ遺言執行人、管理人又ハ後見人タルコトヲ得ス現ニ同資格ヲ有
スル者ハ今後二年以上繼續スルコトヲ得ス

(四) 將來外國人カ相續又ハ抵當權ノ執行又ハ債務取立ノ法定手段ニ依リ善意ニ土地ヲ取得シタル
後十二ヶ年以内ニ歸化セサルトキハ該土地ハ州ニ沒收セラルヘシ

六、土地法ノ修正

一九二一年華州土地法制定後同州ニ於ケル日本人中土地又ハ土地ニ關スル權利ヲ米國出生兒ニ贈
與シ後見人ヲ設定シテ有效ニ權利ヲ維持スルモノアリ又ハ收穫契約若クハ類似ノ契約ニヨリ農事
經營ヲ繼續スルモノアリ排日家ハ之ヲ以テ同州土地法ヲ潛ルモノナリト攻擊シ居タルカ一九二三年
一月八日開會シタル同州々會ニ於テ下院議員「アダム・ビーラー」(Adam Beele)ハ一月二十六
日大要次ノ如キ土地法修正案ヲ提出セリ

(一) 土地所有者カ情ヲ知リテ土地所有者ノ享有スル權利ヨリモ少キ土地上ノ權利ヲ外國人ニ讓渡
又ハ設定シタルトキハ州ニ於テハ其土地又ハ土地上ノ權利ヲ沒收スル代リニ土地所有者ノ財產

中ヨリ之ニ相當スル價格ヲ沒收スルコトヲ得

(二) 外國人ノ未成年ノ子カ現ニ又ハ將來ニ於テ土地ヲ所有スルトキハ其未成年ノ子ハ之ヲ外國人ノ爲ニ信託所有スルモノト推定ス

即チ前者ハ收穫契約ヲ締結スル地主ニ對シ處罰ヲ嚴重ナラシメ後者ハ舉證ノ責任ヲ土地所有者ニ轉嫁シ益々日本人ニ對シ壓迫ヲ加ヘントセルモノニ外ナラス而シテ本案ハ二月十六日下院ヲ通過シタル後同月二十八日上院ヲ通過シ三月十日知事ノ署名ヲ丁シ六月七日（州會閉會後九十日）ヨリ實施セラレタリ（附屬書第九十六號）

七、「ヤキマ」ニ於ケル借地禁止問題

華州外人土地法ノ適用ニ關シ注意スヘキ問題アリ「ヤキマ」印度人保留地域ニ於ケル日本人借地禁止問題即チ之ナリ一九二二年三月一日米國內務長官「アルバート・フォール」ハ「ヤキマ」印度人保留地域管理官「カール」ニ對シ「保留地域ニ於テ借地期間ノ満了セルモノニ付テハ新借地人ハ米國市民ニ限ルヘク且歸還兵ニ對シ優先權ヲ與フヘシ」ト訓令シ越エテ同年十月一日更ニ「保留地域ニ於テハ將來外國人ヲ農業勞働者トシテ雇傭スルコトヲ禁止スヘシ」トノ趣旨ノ訓令ヲ發シタル由ナリ該訓令ハ保留地域内ニ於ケル本邦人ノ農業ヲ根絶セントスルモノニシテ即チ借地禁

止ノミナラス農業勞働ヲモ禁止セルカ故ニ既ニ借地期間ノ満了セル者ハ勿論其後二ヶ年内ニ満了スヘキ千餘名ノ本邦人ハ將來收穫契約其他如何ナル方法ニ依ルモ農業ニ從事スルヲ得サルノ窮地ニ陥レリ然ルニ印度人保留地域ハ中央政府ノ直轄ニ屬シ公有地タル性質ヲ有スルカ故ニ中央政府カ右ノ如ク外國人ニ借地ヲ許ササル方針ヲ確立シ且之ヲ一般外國人ニ適用スル以上日本人ニ對スル差別待遇トシテ抗議スルノ餘地ナク只關係本邦人又ハ同地方ノ米國人側ヨリ中央政府ニ對シ本邦人從來ノ立場ニ顧ミ多少手心ヲ加ヘムコトヲ陳情スルノ外ナカリシヲ以テ同年十月「ヤキマ」日本人會ニ於テハ「シアトル」市聯絡日本人會幹部ト協議ヲ遂ケタル上「ヤキマ」「タバニッシュ」及「ワバト」ノ三市ニ於ケル商業會議所及亞米利加印度人ノ團體ナル「インディアン・カウンシル」及同地方ニ於ケル有力ナル米國人ヲ動カシ之等米國人側ヨリ中央政府ニ對シ訓令修正ヲ請願セシムル計畫ヲ立テ其運動ニ着手セリ

其後一九二三年五月新內務長官「ウオーク」(Hubert Work)ハ「ロクサナ」石油會社借地問題(Roxana Petroleum Corporation case)ニ關聯シ保留地外國人借地禁止ヲ解除シタルモ同年八月「アメリカン・リージョン」等ノ運動ノ結果更メテ保留地ニ於テハ之ヲ圍繞スル華州法ヲ適用スヘク從ツテ本邦人ニ對シテハ借地ヲ許スヘカラストノ内訓ヲ監督官「カー」ニ下シタル趣ナリ仍テ在米

埴原大使ハ同年十月國務長官ニ對シ同地方ニ於ケル日本人ノ立場及希望ヲ詳説シ日本人ノ借地契約竝ニ印度人トノ勞働契約承認方ニ就テ米國當局ノ好意的考慮ヲ求メタルニ關係當局ニ於テハ曩ニ同年七月二十日成立セル規則ニ據リ印度人保留地ニ於ケル借地ハ其所在地州法ニ從フコトトナレル爲外國人ノ借地ヲ禁止セル華州ニ於テハ日本人ノ借地ハ之ヲ認メサルコトトセル旨翌十一月國務長官ヨリ在米大使ニ回答アリタリ（附屬書第九十七號）

第二、「オレゴン」州

一、「イニシアティヴ」立法運動

「オレゴン」州ニ於ケル「アメリカン・リージョン」ノ排日的色彩ノ濃厚ナルハ他ノ太平洋沿岸地方ト同様ニシテ同「リージョン」ハ一九二一年七月ノ大會ニ於テ「中央政府ニ於テ一九二二年一月一日迄ニ日本人問題ニ關シ何等解決ノ方法ヲ講セサルニ於テハ本團ハ「イニシアティヴ」立法手段ヲ執ルヘキコトヲ期ス」トノ趣旨ノ決議ヲ爲シ次テ一九二二年四月ニ至リ實行委員ノ起草シタル土地法案（一九二〇年加州土地法ト内容略ホ同シ）ヲ提ケテ「イニシアティヴ」立法請願ノ署名蒐集ニ着手スルコトニ決定セリ然ルニ同團内ニ於テハ穩健急進ノ二派アリ又運動資金ノ關係モアリテ一時中絶ノ姿ナリシカ六月初旬ニ至リ急進派ハ目的貫徹ニ邁進シ「オレゴン」州内ニ於

ケル同團各支部ヲ遊説スルト同時ニ「イニシアティヴ」立法ニ關スル第一手段トシテ「バロット・タイトル」ヲ取得スル爲六月十四日州務長官ニ請願書ヲ提出セリ仍テ州務長官ハ之ヲ州檢事總長ニ移牒シ檢事總長ハ法案審査ヲ終リタル後之ニ「バロット・タイトル」ヲ附シ十七日州務長官ニ交付シ同長官ハ十九日其登錄ヲ了シ之ヲ出願人ニ通知セリ「バロット・タイトル」ヲ取得スルヤ第二ノ手段トシテ請願書ニ法定數（一三、二六一）ノ署名ヲ蒐集シ之ヲ法定期日七月六日迄ニ再ヒ州務長官ニ提出スル必要アリ然モ期日頗ル切迫セルヲ以テ同團ニ於テハ團員各自陣頭ニ立チテ猛烈ナル運動ヲ始メタル時既ニ遅ク七月六日迄ニ蒐集シ得タル署名數約八千ニ過ギメシテ請願不成立ノ結果ヲ見ルニ至レリ

二、排日土地法

然ルニ一九二三年一月同州々會開會スルヤ下院議員「ベーリー」及「ハストン」ハ「アメリカン・リージョン」等ノ後援ノ下ニ排日土地法案ヲ同院ニ提出シタルカ同案ノ内容ハ略一九二〇年加州排日土地法ト同シク歸化權ナキ外國人ニ對シ條約ノ範圍内ニ限リ土地ノ所有借地ヲ許シ又斯ル外國人ニ對シ株式會社組織後見人タルノ權利ヲ否認セルモノナリ而シテ本案提出ト同時ニ在「ボートランド」領事ハ同市商業會議所等ト連絡ヲ採リ其通過防止策ヲ講シタルモ下院委員會ハ一月二

十九日本案ニ微少ノ修正ヲ加ヘ下院ニ賛成報告セリ下院ハ前年選舉ニヨリ「クー・クルフクス・クラン」及「アメリカン・リージョン」所屬議員多數アリ之等議員ハ選舉ノ際排日法案支持ノ言質ヲ取ラレ居ル關係モアリ本案阻止ハ到底困難ナルヘシト豫測セラレタルカ二月一日五十六對一二テ通過セリ之ト前後シテ在米佐分利代理大使ハ一月三十一日國務省極東部長ニ會見ノ際公然トナク同法案ニ對シ注意ヲ喚起スル所アリシ一方上院ニ於テモ本案ヲ支持スルノ空氣漲リ大勢ノ赴ク所之ヲ阻止スルコトヲ得サルニ至リ十三日委員會ニ於テ三年以内ノ借地權ヲ認容スル條項ヲ挿入スルノ修正意見出テタルモ之ヲ否決シ同法實施期ヲ一九二四年一月一日以後トスル修正案ヲ少數案トシテ本會議ニ贊成報告セリ上院ハ十三日夜右少數案ヲ否決シ十四日原案ノ討議ニ入り投票ヲ用ヒス満場一致之ヲ可決セリ而シテ二月十六日州知事ハ土地法案ニ署名シ遂ニ成立スルニ至レリ（附屬書第九十八號）

第三、加州

一、外國語學校取締法

一九二〇年「イニシアティヴ」土地法ノ制定ト共ニ加州ニ於ケル排日運動ハ一段落ヲ告ケ 稍々下火トナリタル觀アリシモ翌一九二一年一月同州々會開會スルヤ教育漁業等ニ關スル數種ノ日本人

排斥法案提出セラレ其中「シャーケー」ノ外國語學校廢止案ハ在米日本人會ノ意嚮ヲ容レタル「ライオン・バークー」外國語學校取締法案ヲ以テ代ラシムルコトヲ得タルモ學童隔離法案ハ不幸ニシテ成立ヲ見ルニ至レリ

元來加州ニ於テハ數年前ヨリ外國語學校ノ廢止又ハ取締ノ必要ヲ唱道スルモノ多ク屢々排日派ノ論題トナリタルカ之主トシテ在加州日本人ノ經營セル日本語學校ヲ對象トシタルモノニシテ一九二一年一月加州議會上院ニ上院議員「シャーケー」ヨリ廢止法案ヲ提出シ其運命逆賭シ難キ形勢ナリシヲ以テ日本人ニ好意ヲ有スル上院議員「ライオン」ハ在米日本人會等ト協議ノ上一九二〇年布哇外國語學校取締法ヲ參考トシテ作成セル取締法案ヲ一ノ對案トシテ同院ニ提出シ又「ライオン」ト親交アル下院議員「バークー」ヨリモ同様ノ法案ヲ下院ニ提出セリ右三案ニ對スル討議ノ結果「バークー」案ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノ上下兩院ヲ通過シ四月四日州知事「リチャードソン」ノ署名ヲ經テ實施セラルニ至レリ同取締法ノ要旨次ノ如シ

(一) 私立外國語學校ヲ經營シ又ハ其學校ニ於テ教授セントスル者ハ豫メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ教師ノ資格ハ民主々義ノ理想ヲ抱懷シ米國ノ歴史及制度ニ關スル智識ヲ有シ英語ノ解釋力アルヲ以テ必要條件トス

(二) 右學校ハ公立學校ノ授業前早朝若クハ授業時間中ニ開校スルコトヲ得ス又授業時間數ハ毎日一時間毎週六時間若ハ毎學年三十八週間ヲ超過スルコトヲ得ス但シ公立學校ニ出席スルヲ要セナル十七歳以上ノ生徒ニ對シテハ此限ニ非ス

(三) 外國語學校ノ課程及教科書ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

二、日本學童隔離法

(一) 「グリーン」提出法案

加州ニ於ケル日本學童隔離ノ問題ハ一九〇七年以後再發シタルコトナカリシカ一九一九年州會ニ於テ下院議員「カールトン・ダブルユウ・グリーン」日本學童隔離ニ關スル法律案ヲ提出シ上院ニテ握潰シトナリタルカ一九二一年州會ニ再ヒ同議員ニ依リ同様ノ學童隔離案下院ニ提出セラレ直ニ委員附託トナレリ同法案ノ內容ハ教育當局ニ對シ其認定ニ依リ印度人支那人日本人又ハ蒙古人ノ兒童ノ爲隔離學校ヲ設立スルノ權限ヲ與ヘ右隔離學校ノ設立セラレタル場合ニ於テ印度人支那人日本人又ハ蒙古人ノ兒童ハ他ノ一般公立初等學校ニ入學スルコトヲ許ササルモノトナスニアリ印度人支那人及蒙古人ノ兒童隔離ニ關スル法律ハ以前ヨリ加州ニ在リタルカ新法案ハ之ニ日本人ナル文字ヲ附加シタルモノナリ

右「グリーン」案ハ同年三月二十二日一人ノ反對者モナク下院ヲ通過スルニ至レルヲ以テ在米幣原大使ハ政府ノ訓令ヲ體シ四月六日國務長官ヲ訪ヒ本件法案ノ情勢ヲ述ヘ若シ本案ニシテ成立スルカ如キコトアラハ(イ)日本人ニ對スル一種ノ侮辱ヲ表示スルモノトシテ我人心ノ激昂ヲ加フルノミナラス(ロ)日米兩國少年ノ互ニ接近スル機會ヲ奪ヒ米化運動ヲ挫折セシムルコトヲ説明シ非公式ニ法案ノ性質及結果ニ對スル米國政府ノ注意ヲ促シタルニ國務長官ハ直ニ實況ヲ調査スヘキ旨答ヘタリ

然ルニ同案ハ四月二十六日些少ノ修正アリタル上殆ト討論ナク上院ヲ通過シタリ

(二) 「メーザー」提出法案

之ヨリ先下院議員「メーザー」(Mather)ハ一月二十日新タニ學童登錄手續ニ關スル規定ヲ設クル爲公立學校ニ關スル現行法ノ修正案ヲ下院ニ提出シタルカ該法案ハ下院ヲ通過シ上院ニ廻附セラレタリ然ルニ四月二十日上院第三讀會ニ於テ上院議員「カール」(Carl)ハ突然右「メーザー」案ノ冒頭ヘ「グリーン」案其儘ト同一內容ノ條項ヲ附加シ右二案ヲ併セテ一案トスル動議ヲ提出シ右修正案ハ直ニ特別委員ノ審査ヲ經タル後上院ヲ通過シ州知事ハ六月四日前記「グリーン」案ヲ併合シタル「メーザー」案ニ署名シタリ

小學校ニ關スル「メーザー」法中日本學童隔離條項次ノ加シ

Third.—The Governing body of the school district shall have power to exclude children of vicious or filthy habits, or children suffering from contagious or infectious diseases, and also to establish separate schools for Indian children and for children of Chinese, Japanese or Mongolian parentage. When such separate schools are established, Indian, children of Chinese, Japanese or Mongolian parentage must not be admitted into any other school.

三、土地及其他不動產ニ關スル法案

次期一九二三年州會ニ於テハ外國語學校廢止法案、漁業禁止法案提出セラレ幸ヒ孰レモ不成立トナレリ然ルニ州會下院議員「ウッドブリッヂ」夫人バ

一、一九二〇年加州外人土地法ヲ修正シ收穫契約禁止規定ヲ包含セシムルノ法案（附屬書第九十九號）

一、歸化不能外國人ハ不動產又ハ不動產上ノ權利ヲ內容トスル財產ニ關シテハ後見人ニ任命セラルコトヲ得ストスル規定ヲ民事手續法中ニ追加スルノ法案

ヲ提出シ前者ハ五月二日下院ヲ同月十四日上院ヲ夫々通過シ六月二十日知事ノ署名ヲ得又後者ハ四月二十七日下院ヲ通過シ五月十四日上院通過ノ後五月三十一日知事之ニ署名セリ

第四、日本人ニ對スル差別待遇ヲ規定スル法規一覽

次ニ當時ニ於ケル日本人ニ對スル差別待遇ノ狀況ヲ知悉セムカ爲關係諸立法ヲ表示スヘシ

一、中央立法（入國問題ヲモ含ム）ノ中注意スヘキモノ次ノ如シ（一九二四年十二月現在）

種類	法規	註
歸化	米國改正法典（第二一六九條）歸化ニ關スル規定ハ自由ナル白人及阿弗利加土人竝ニ阿弗利加人ノ子孫タル外國人ニ之ヲ適用スヘキコトヲ定ム 尙一九〇六年米國歸化法施行細則（第二十一條）ハ「裁判所書記ハ白人及阿弗利加土人竝ニ其子孫以外ノ外國人ヨリ歸化出願書ヲ受理スルヲ得ス」ト規定セリ 女子ノ歸化及國籍ニ關スル法律（一九二二年九月成立）イ米國市民タル女子カ歸化權ナキ外國人ト婚姻スル場合ニ於テハ婚姻ニ依リ國籍ヲ喪失スヘキコト（歸化權アル外國人トノ婚姻ニ於テハ國籍ヲ喪失セス）ロ歸化權ナキ外國人ノ妻トナリタル場合ニ於テハ婚姻繼續中歸化スルコトヲ得ナルコトヲ定ム	本法ニヨリ廢止セラレタル改正法典第一九九四條竝ニ後出第十六章「ケーブル」法ノ條参照

入 國 一九二四年米國移民法（同年五月成立日本
人排斥條項七月ヨリ實施）

轉航禁止ニ關スル 一九一三年
大統領令ハ實質上日本移民ヲ
標的トシタルモノナルモ形式
上差別的ニアラス

二、地方立法中主ナルモノ次ノ加シ（一九二四年十二月現在）

種類	土 地 利 權 利 ス ニ ル	州 加 州 華 州 ア リ ゾ ナ 州 テ ラ ウ エ	註
從來各州立法中土地所 有權ノ享有一關シ歸化 ノ意思表示ヲ條件トス ルモノ數個(「ミネソ タ」州「ミズーリ」州華 州及「ディストリクト・ オヴ・コロンビア」ア リタルモ孰レモ日本人 排斥ヲ目的トシテ制定 セラレタルモノニアラ ス土地所有ニ關スル最 初ノ排日立法ハ一九 一九年立法ハ一九	一 九 二 〇 年 外 人 土 地 法 (同 年 十一 月 成 立 同 年 十二 月 ヨ リ 實 施 一 九 二 三 年 收 權 契 約 禁 止 ヲ 包 含 ス ル 修 正 土 地 法 (同 年 六 月 成 立 一 九 二 三 年 後 見 禁 止 手 續 法 (同 年 五 月 成 立 一 九 二 一 年 外 人 土 地 法 (同 年 三 月 成 立 同 年 六 月 ヨ リ 實 施 一 九 二 三 年 土 地 法 修 正 法 (同 年 三 月 成 立 同 年 六 月 ヨ リ 實 施 一 九 二 一 年 外 人 土 地 法 (同 年 二 月 成 立 即 時 實 施 一 九 二 一 年 加 州 土 地 法 ト 殆 ト 同 シ 一 九 二 一 年 外 人 土 地 法 (同 年 四 月 成 立 即 時 實 施 一 九 二 一 年 外 人 土 地 法 (同 年 四 月 成 立 同 年 五 月 實 施 歸 化 權 ナ キ 外 國 人 ニ 對 シ 土 地 所 有 借 地 其 他 ノ 利 益 ヲ 禁 止 ス (同 州 憲 法 第 二 章 第 二 十二 條 參 照)	州 加 州 華 州 ア リ ゾ ナ 州 テ ラ ウ エ	一 九 二 〇 年 外 人 土 地 法 (同 年 十一 月 成 立 同 年 十二 月 ヨ リ 實 施 一 九 二 三 年 收 權 契 約 禁 止 ヲ 包 含 ス ル 修 正 土 地 法 (同 年 六 月 成 立 一 九 二 三 年 後 見 禁 止 手 續 法 (同 年 五 月 成 立 一 九 二 一 年 外 人 土 地 法 (同 年 三 月 成 立 同 年 六 月 ヨ リ 實 施 一 九 二 三 年 土 地 法 修 正 法 (同 年 三 月 成 立 同 年 六 月 ヨ リ 實 施 一 九 二 一 年 外 人 土 地 法 (同 年 二 月 成 立 即 時 實 施 一 九 二 一 年 加 州 土 地 法 ト 殆 ト 同 シ 一 九 二 一 年 外 人 土 地 法 (同 年 四 月 成 立 即 時 實 施 一 九 二 一 年 外 人 土 地 法 (同 年 四 月 成 立 同 年 五 月 實 施 歸 化 權 ナ キ 外 國 人 ニ 對 シ 土 地 所 有 借 地 其 他 ノ 利 益 ヲ 禁 止 ス (同 州 憲 法 第 二 章 第 二 十二 條 參 照)

三年加州土地法ナリト

ア」州	「ルイジアナ」州	「ネブラスカ」州	「ニューメキシコ」州	「オレゴン」州
施) 加州土地法ト類似スルモ不動産ノミナ ラス動産ノ所有ヲ禁止ス尤モ法人ニ關スル 制限規定ナシ	一九二一年外人土地法(同年四月成立 五月實施) 不動産ノ賣買借地相續遺贈ニ依ル取 得擔保權ノ設定ヲ一切禁止ス(施行細則ハ 州會ニ於テ未制定)	一九二一年外人土地法(同年四月成立同年 七月實施) 一般外國人ニ對シ不動產所有五 年以上ノ賃借其他ノ權利ヲ禁止ス	一九二一年外人土地法(同年四月成立同年 五月實施) 歸化權無キ外國人並ニ歸化意思 ヲ表示セサル外國人ニ對シ不動產ノ所有借 地其他ノ權利ヲ禁止ス	一九二一年憲法修正(同年九月一般投票ニ ヨリ成立ス)
歸化權ナキ外國人ニ對シ土地所有借地其他 ノ利益ヲ禁止ス(同州憲法第二章第二十二 條參照)				
一九二三年外人土地法(同年二月成立)				

州 「アイダホ」	「モンタナ」	一九二三年外人土地法（同年三月成立同年五月實施）一九三一年華州法ト同シ但シ本法ハ趣旨ニ於テ同シ但シ五ヶ年以内ノ借地ヲ許可ス
華州法ト異ル		一九二〇年外國語學校及教員取締法（同年十一月成立一九二一年七月實施）

漁業	教育	米國市民又ハ歸化ノ意表示ヲ爲シタル者ニアラサレハ或種ノ漁業ヲ禁止スル州立法（「オレゴン」「ワイオミング」等）存在セルモ孰レモ古クヨリ存シ日本本人排斥ヲ目的トセリト目シ得ス
州 「モンタナ」	布 哇	一九二〇年外國語學校及教員取締法（同年十一月成立一九二一年七月實施）

雜	婚姻	加 州
	州 「オレゴン」	一九二三年學年短縮規定ヲ包含スル修正外國語學校取締法（同年五月成立）
	州 「ワイオミング」	一九二一年外國語學校及教員取締法（同年四月成立）
右ノ外州法又ハ市條例等ヲ以テ市民又ハ市民タル意思表示ヲ爲スヲ條件トセルモノノ中注意スヘキモノ次ノ如シ、酒類ノ販賣	州法ニ依リ白人對黑人及蒙古人種又ハ四分ノ以上黑人及蒙古人種ノ血ヲ享ケタル者ノ婚姻ヲ禁止ス 州法ニヨリ白人對黑人黑白混血人及蒙古人及馬來人種ノ婚姻ヲ禁止ス（一九一三年州法第五十七章第一條） 一九二一年州法（同年二月成立）白人ト蒙古人若ハ其ノ他ノ東洋人トノ間ノ婚姻ヲ禁止ス（白人黑人間ノ婚姻ヲ禁止セル從來ノ法律ニ對スル追加ナリ）	一九二一年學童隔離法（同年六月成立）
市民又ハ市民タル意思表示ヲ爲シタルモ		
「オレゴン」州法（一九		

ノニアラナレハ酒類ノ販賣ヲ爲スヲ得ストスルモノ（「ボートランド」「アストリア」「メリスピル」各市條例「アラスカ領法等）

二、公ノ工事ニ雇傭スル人夫

市民、市民タル意思表示ヲ爲シタルモノ又ハ市民トナル資格ヲ有スル者ニアラサレハ州郡市ノ工事ニ使用スルヲ得ストスルモノ（「アイダホ」「ワイオーミング」各州法等）

三、州有地拂下及「ホーム・ステッド」地

市民又ハ市民タル意思表示ヲ爲シタル者ニアラサレハ州有地ノ拂下又ハ「ホーム・ステッド」地ニ入込ムヲ得ストスルモノ（「オレゴン」「アイダホ」華州各州法等）

四、自然產牡蠣ノ採集

市民トナル資格ヲ有スルモノニアラサレハ販賣ノ爲自然產牡蠣ノ採集又ハ之カ養殖場ノ設立及投資ヲ爲スヲ得ストスルモノ（「オレゴン」州法）

五、狩獵漁獲免許料

其他狩獵又ハ漁獲ノ免許ニ市民タル意思表示ヲ爲ササル外國人ニハ特ニ多額ノ免許料ヲ課スルモノ（「オレゴン」「モンタナ」加州各州法等）

六、大學授業料

加州大學ニ於テ歸化意思表示ヲ爲ササル外國人學生ニ對シ授業料ヲ徵收スルモノ（加州法一九二三年六月成立）

七、日支人所有地借地表ノ調製

州官吏ヲシテ毎年州内ニ於ケル土地ヲ所有借地スル日支人ノ表ヲ調製セシムルモノ（「オレゴン」州法一九二三年二月成立）

第二節 差別待遇問題ニ關スル日米交渉

一、歸化權及土地法ニ關スル試訴提起

一九一三年加州土地法制定以來帝國政府ニ於テハ同法ノ適法ナリヤ否ヤノ問題殊ニ同法適用ノ軌

二三年二月成立ニヨリ
「ホテル」及下宿業等ニ
對スル「ライセンス」
レハ自治團體ハ外國人
ニ對シ娛樂遊戲飲料店
表面上外國人一般ニ適用セラルモ實際上不
便ヲ蒙レルハ日本人等
東洋人ナリ